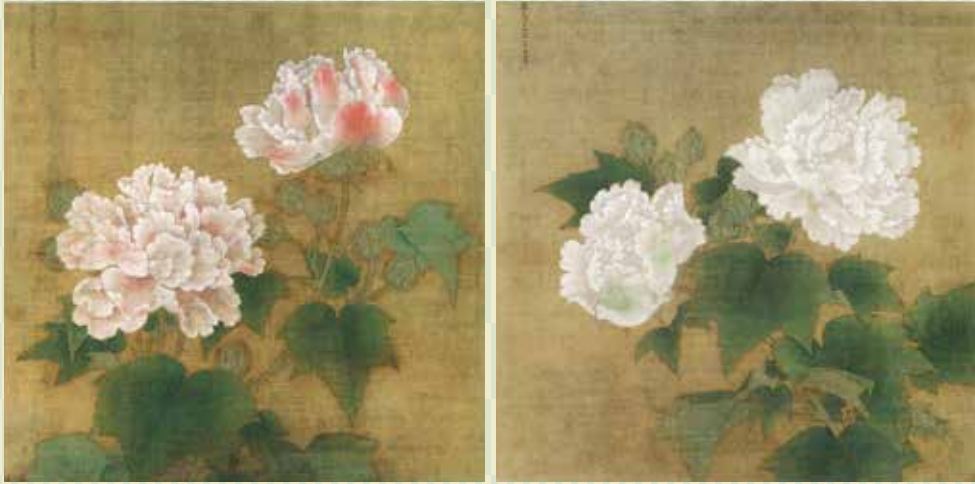




国宝 紅白芙蓉図 李迪筆 南宋時代・慶元3年(1197年) 東京国立博物館蔵 展示期間 5月23日～6月4日
花の色が白から紅に移り変わってゆくさまが繊細なタッチで描かれています。
もともとは掛け軸ではありませんでしたが、茶の湯で床の間に飾るために仕立て直されました。

茶の湯

主催＝東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、毎日新聞社
特別協力＝表千家不審庵、裏千家今日庵、武者小路千家官休庵、藪内燕庵、遠州茶道宗家、江戸千家宗家蓮華庵、
江戸千家、大日本茶道学会、茶道宗偏流不審庵
協賛＝伊藤園、トヨタ自動車、日本写真印刷、三井住友海上火災保険、三井物産
展示協力＝大光電機

観覧料(税込)	当日券	前売券	団体券	※団体は20名以上。 ※障がい者とその介護者1名は無料。(入館の際に障がい者手帳などをご提示ください。) ※きもの割引:会期中きもので来館のお客様は、当日料金から100円割引となります。
一般	1,600円	1,400円	1,300円	中学生以下は観覧無料です。
大学生	1,200円	1,000円	900円	
高校生	900円	700円	600円	

※東京国立近代美術館「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」(開催期間:3月14日(火)～5月21日(日))との共通チケットを販売。
2展で2,600円。(販売期間5月21日(日)まで)
※東京国立博物館と東京国立近代美術館の間をシャトルバス運行。(運行期間:4月11日(火)～5月21日(日)、展覧会チケット要提示)
お問合せ＝03-5777-8600(ハローダイヤル) 展覧会公式サイト＝<http://chanoyu2017.jp/>

TNM 東京国立博物館
TOKYO NATIONAL MUSEUM
〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館ウェブサイト＝<http://www.tnm.jp/>

博物館でのルール
1 ゆっくり歩いて静かに見よう
2 作品にインクがつかないようにメモはえんぴつで
3 作品やケースにはさわらず目で楽しもう

このジュニアガイドは、特別展「茶の湯」の鑑賞の手引きとして、小学校高学年から中学生までを対象に作成しました。
執筆＝東京国立博物館 制作＝東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション デザイン＝オカダック イラスト＝オカダック、シルシ



重要文化財
黒楽茶碗 銘 ムキ栗
長次郎 安土桃山時代・16世紀
文化庁蔵
四角と丸の組み合わせが
珍しい茶碗です。



唐物肩衝茶入 銘 遅桜
中国 南宋～元時代・13～14世紀
東京・三井記念美術館蔵
将軍足利義政が名づけ、
徳川将軍家に伝わった茶入です。
展示期間 4月25日～6月4日

2017年 4月11日(火)～6月4日(日)
東京国立博物館 平成館 (上野公園)

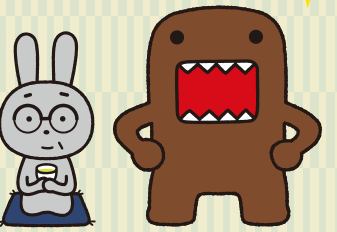
茶の名品、
ずらり。



国宝 青磁下蕪花入
中国 南宋時代・13世紀
アルカンシエール美術財団蔵

ふっくらとした丸みが野菜のカブに見立てられ名づけられました。

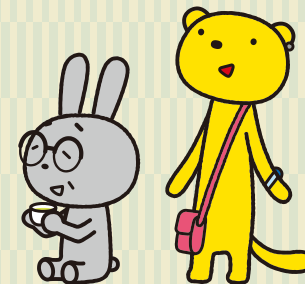
中学生以下は
観覧無料





茶の湯の歴史

日本ではお茶を楽しむために、
飲み方や道具などにいろいろな工夫がされました。



鎌倉時代のはじめ

中国から伝わったお茶は薬として飲まれていました。鎌倉幕府の将軍源実朝が二日酔いになったとき、禅僧の栄西は源実朝にお茶を勧めたといわれています。

お茶は
体にいいよ

栄西
(1141-1215)

鎌倉時代のおわり

禅宗のお寺は儀式としてお茶を飲み、武士たちはお茶の産地を当てる闘茶などを楽しんだりしました。

闘茶は武士の
ステイタス

武士

室町時代 ①

室町幕府の将軍も茶の湯に親しみ、中国から最高級美術品をとりよせ、室内を飾り、お茶を楽しみました。

私の高級美術品
コレクションです

足利義政
(1436-1490)

室町時代 ②

京都を中心に有力な商人たちの間で、中国の高級な美術品ではなく、身近にある日常のうつわをとり入れた「わび茶」が誕生しました。

シンプル・イズ・ベスト

珠光
(1423-1502)

明治時代

藤田香雪、益田鈍翁といった実業家たちは、大名がかつて持っていた茶湯道具を集め、伝統を大切にしつつ新しい時代の茶の湯を作りあげました。

楽しんでこそ
上手なれ!

益田鈍翁
(1848-1938)

江戸時代

初期には大名のための新しいスタイルの茶の湯を広めた小堀遠州、後期には茶湯道具コレクションがあとの時代に影響を与えた松平不昧などの大名茶人がいました。

客のころになって
亭主をせよ

松平不昧
(1751-1818)

安土桃山時代 ②

武士の間で茶の湯が大流行する一方で、堺の商人・千利休は自分好みの道具を作り出し、わび茶の新しいスタイルを生み出しました。

花は
野にあるように

千利休
(1522-1591)

安土桃山時代 ①

織田信長や豊臣秀吉などの武将たちは茶湯道具を戦で手柄をたてた家臣へのほうびに用いました。武士にとって茶湯道具は財力と権力の象徴でもあったのです。

はい、ごほうび

織田信長
(1534-1582)

茶の湯の空間人ようこそ!

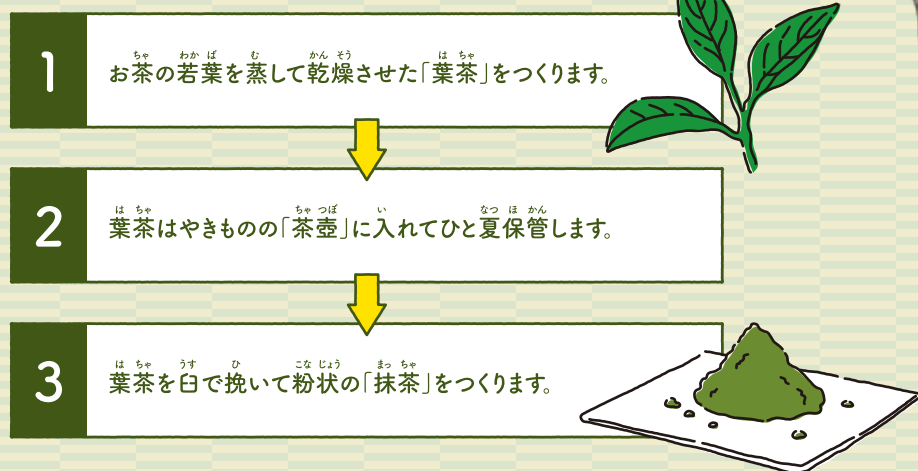
茶室には、日本の文化とこころが
いろいろ詰まっています。



お茶の道具いろいろ



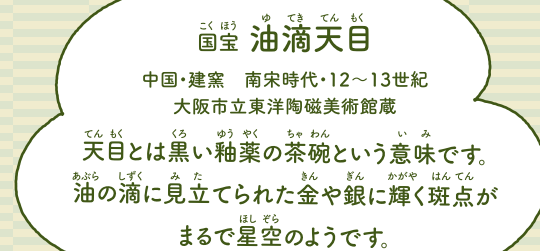
抹茶ができるまで



濃茶は抹茶を少量の湯で練り、ひとつの茶碗に数人分を、
薄茶は抹茶を多めの湯で薄めに混ぜて、ひとり分ずつ点てます。

お気に入りの茶碗は?

茶碗とは、抹茶と湯を入れてお茶を点てて飲むためのうつわです。茶会では、「一期一会」の心で客に出す茶碗を選びます。展覧会場で形や色をよく見て、手触りをイメージしてみましよう。いつ、誰に、どんな茶碗でお茶を出したら喜んでもらえるかな。



重要文化財 青井戸茶碗 柴田井戸

朝鮮 朝鮮時代・16世紀
東京・根津美術館蔵

朝鮮半島で作られた茶碗。
織田信長から家臣の
柴田勝家へ贈られました。

